

日本共産党

高槻市議員

きよた 純子



ニュース

2019年10月12日
NO. 82

発行：日本共産党高槻市議員団 きよた純子
連絡先：議員団控室
TEL072-674-7230 FAX072-674-3202
上本町3-25 TEL/FAX. 676-5068

学校教育での子どもの成長保障について

～9月議会で一般質問をしました～

不登校が増える中学校で 35人以下学級の実施を

不登校は心の休息を必要としており、その子にとってはやむを得ないことです。一方で子どもが行きたくなる学校になるよう、改善する必要があります。

特別支援教育の充実を



支援学級の在籍児童数は、2013年度1085人。2019年度は1816人とこの6年間で1.7倍近くに急増しています。

支援学級は、8人以下の子どもでつくることとが文部科学省の方針です。ところが、この間の教員の増加率は、在籍児童数の伸びの6割弱で、教員1人あたりの担当生徒数は4.4人から5.4人に増えていきます。とりわけ、知的障害と自閉・情緒障害の子どもとの人数は1.8倍になり、学習、行動面で違いのある子ども達への支援が大切です。

英語教育の早期化など、多くの子どもが、授業から取り残される心配があります。中学校でも、小学校で実施している35人以下学級を実施し、きめ細や

府に求めるよう主張しました。

支援学級の担任とともに学習の支援をする学習活動支援員が配置されています。小中学校で59校の年間の授業で、学習活動支援員がつくのは40日。週2日か3日だけ、派遣されるのもわずか18校です。学習活動支援員の増員を求めました。

通級指導教室の増室を

この教室は上手にコミュニケーションが取れない、発音が正しくできないなど、特別な指導が必要な子どもが通っています。

2013年度は通

級指導教室の子どもは小中で127人、2019年度は178人と大きく増えていきます。しかし、教室の数は、今年度は小学校で9校、中学校で3校しかありません。他校から通っている子どもは小学校145人中90人、中学校では33人中27人と多くなっています。通級指導教室があります。通級指導教室が求めるようにしています。

危険空き家により 高槻小学校区の通学路が変更

昨年大阪北部地震の影響で、高槻小学校区では、通学路に面している空き家のかわらがずれ、落ちそうになっているといます。この道はほとんどの子どもが通る中心的な通学路でしたが、子どもが通るのは危険だと通学路が変更されました。

現在、高槻市は空き家対策の具体化を進めています。

通学路の早期復活を求める

変更した通学路は、交通量が多く危険で



高齢者福祉専門分科会に出席しました(10月8日)

市バス敬老パス見通しの審議が始まりました

高齢者無料乗車証について活発な議論が行われました。委員からは、「市バスが無料だからボランティアに行けるが、有料だとボランティアの回数も減る」、「収入が少ない人や、不便な地域は買い物や病院に行くことができない」、「敬老パスを利用して出掛ける人が多い。それで、高齢者が元気なのかと思う。市バスは継続して欲しいので市バスが赤字になるなら、高齢者もお金をはらうこともしかたがない」、「介護予防で介護保険の経費も安くなっており、市のためにもなっている。総合的にみてもらいたい。赤字で大変であれば、対象年齢を70歳から75歳に引き上げてもと思うが、高槻市は基金も中核市の中でも多く、借金も少ないから継続して欲しい」、「敬老パスは高槻の宝。高槻市は市民病院はな

いが敬老パスがある。高齢者福祉全体で考える必要がある」などの意見が出されました。きよた議員は、健康寿命が大阪府内で高槻市は2番目に長くなっていること、介護認定率は16・5%と低く、介護保険への市の負担も少なくすんでいることなどの効果を指摘。35年連続で高槻市の財政は黒字であり、生活が苦しい高齢者に負担を求めず、市の市バスへの補助金全体の見直しと現行制度の維持を求めました。



次回の分科会日程

日時…11月5日14時
場所…市役所総合センター12階

予定ではその後、分科会の意見がまとめられることになっています。



下記の基本的な考え方をもとに関係機関と検討した結果、高槻市八丁西町の弁天駐車場敷地が適地

高槻・島本夜間休日応急診療所の移転場所(案)は弁天駐車場

現施設は耐震性が確保できておらず、敷地面積が狭いことが課題です。

だとする報告がありました。

●現行の診療科目(内科、外科、小児科、歯科)など初期救急医療体制の維持

●設置場所は、地域の医療環境を踏まえて検討

【現施設と弁天駐車場との比較】

※()内は現施設の敷地

●延べ床面積—約10000㎡(720㎡)

●駐車場台数—約50台(25台)

大阪医大に移転の三島救命救急センター
患者受け入れ体制の充実と運営状況の改善を
9月11日の福祉企業委員会協議会で、三島救命救急センターについての報告がありました。
2016年度に患者の受け入れを断った件数は306件で、断った理由で多いのは、ICUの満床、手術中、対応科なしです。昨年度も377件の受け入れを断っています。
国・府と市の財政支援について
3市1町(高槻市、茨木市、摂津市、島本町)の現行補助額は年間4億5千万円。10年分である45億円を上限として10年かけて支援するとしています。国、大阪府の現行補助額は3億1千万円。国・府・市の具体的な支援額は今後の協議で決めていくとしています。
きよた議員は、患者の受け入れ体制や運営状況を改善させ、今より良い水準になるように今後も国や府、高槻市の支援を求めました。



市政相談

電話でご連絡ください
676-5068

きよた純子

～お気軽にご相談を～

※留守の場合は必ず、留守電話に氏名と連絡先の録音をお願いします。